

〔SPF 豚農場紹介〕

## JA 長野経済連 SPF 種豚センター

JA グループ長野県農協直販(株) SPF 種豚センター所長 中村 秀司

### 1. SPF 種豚センター設立の経緯

JA 長野県経済連は、佐久、伊那の両種豚場を拠点として、従前から管内農家向けにハイコープ種豚の供給をおこなってきたが、長野県養豚事業体制整備方針に基づき、①両種豚場を1場化する、②生産性向上を図り、管内養豚基盤の強化をすすめる等を目的として、伊那種豚場跡地を造成し、新たに SPF 種豚センターを建設した。

この SPF 種豚センターは、全農ハイコープ SPF 豚ピラミッドの F1 母豚供給基地の第1号として平成4年3月に完成し、平成5年4月から種豚の供給を開始している。運営は経済連の関連企業である長野県農協直販(株)が担当している。

今回、種豚の供給開始から2年を経過したので、長野県の養豚の現状も含めて農場の概要を簡単に紹介する。

### 2. 長野県の養豚生産基盤

長野県では常時13,000頭の母豚が飼養され、年間24万頭の肉豚が出荷されているが、長野県内の肉豚消費量はこれを上回るため、現状豚肉の流入県となっている。

経済連は、この内17万頭（シェア70%）を確保し、県内産豚肉の消費拡大、有利販売に日夜努力しているところであり、農協直販(株)は、松本の処理施設を中心に年間8万頭の肉豚を末端消費者に結びつけている。

この豚肉を生産している農家の多くは従前のハ

イコープ豚を利用しており、SPF 種豚センターは、この種豚需要に見合う清浄種豚を供給することが大きな使命となっている。

### 3. 農場の概要

- (1) 所 在：長野県上伊那郡中川村大字片桐刈谷沢  
7789 (TEL 0265-88-2572)
- (2) 施 設：表1のとおり
- (3) 職員数：6名
- (4) 常時稼動母豚数：300頭
- (5) 年間育成豚販売実績：2,040頭(平成6年度実績)
- (6) ヘルスチェック機関：JA 全農クリニックセンター（クリニック検査 GP 農場コース）

表1 施設の概要 (m<sup>2</sup>)

事務所	175.55	種豚舎	1,236.34
寮	52.99	分娩離乳舎	1,258.44
車庫(A)	14.58	前期育成豚舎	883.28
車庫(B)	82.94	後期育成豚舎	1,049.51
飼料資材庫	66.24	検疫豚舎	108.00
管理舎	66.24	堆肥舎	728.72

### 4. 種豚供給の現状

SPF 種豚センター開設時において、本県では SPF 豚農場はあまりなく、現状でも SPF 豚以外の在来豚（コンベ豚）を飼養している農場が絶対的な多数を占めている。

このため、供給開始当初は、導入時の馴致の成否が農場毎の評価として別れたが、馴致技術が安定してきた現状では大きな問題もなく一定の評価を得てきている。

一方 SPF 新設農場の整備も次第に進展し、これらの農場では繁殖性・産肉性とも高い評価を得ている。

### 5. ハネ豚の処理

F1系雄豚や種豚選抜漏れ雌豚（ハネ豚）については、農協直販(株)の預託事業として、契約農場で専用に肥育しており、会社の食肉事業で専属的に活用している。このため、SPF 種豚センターでの飼育密度の低下や回転率の向上につながり、会社全体としての事業効果がでてきている。

また、衛生状態の有利さから、試験研究機関か

らの実験用動物としての供給依頼もあり、今後の新たな SPF 豚市場として期待できる。

### 6. SPF 豚肉販売戦略と SPF 豚普及戦略

これまで、長野経済連はその共販率の高さを生かして、高品質豚肉のブランド化・定着化に取り組み、生産者から高い評価を得てきている。今回この SPF 豚肉についても「信州 SPF 豚」として、その延長線上に位置づけ販売戦略を構築しているが、基本的には、生産サイドのメリット、すなわち生産性の高さを強調し進めてきている。

今後、現在の円高が更に進展し、諸外国の生産費と競争せざるを得ない場合には、この SPF 豚事業を軌道に乗せ、地域養豚生産基盤の整備を進めることが急務の課題となっている。

施設配置図

